

指定ごみ袋の素材・種類について

1. 指定袋の素材について

①基本的な考え方

指定ごみ袋の素材を検討する上で、国の動向や他自治体での実施状況を考慮する必要があります。また、「SDGs 未来都市」として SDGs の基本理念である持続可能な開発目標を達成するため、化石燃料に過度に依存せず再生可能な素材を使用することが重要です。

② 国の動向

政府は、第四次循環型社会形成推進基本計画を踏まえ、資源・廃棄物制約、海洋プラスチックごみ問題、地球温暖化、アジア各国による廃棄物の輸入規制等の幅広い課題に対応するため、3 R +Renewable（再生可能資源への代替）を基本原則としたプラスチックの資源循環を総合的に推進するための戦略「プラスチック資源循環戦略」を、令和元年 5 月 31 日に策定しました。

その「プラスチック資源循環戦略」では重点戦略として再生材バイオプラスチックの利用促進を掲げ

『可燃ごみ用指定収集袋などの燃やさざるを得ないプラスチックについては、原則としてバイオマスプラスチックが使用されるよう、取組を進めます。』しています。

③バイオプラスチックの環境への影響

バイオプラスチックはその原料となる植物が成長過程で光合成により二酸化炭素を吸収するため、焼却時に発生する二酸化炭素と相殺され、地球温暖化の原因の一つとされる大気中の二酸化炭素の増減に影響を与えないとする、カーボン・ニュートラルとなります。

④他市町村の状況

現在、原料の一部にバイオプラスチックを使用した指定ごみ袋を採用している主な自治体は以下のとおりです。

自治体名	袋の素材	袋の値段（1 枚当たり） （処理手数料を含む）	備考
京都市 1,411,116 人	原料の一部（10％）に さとうきび等の非可 食部を使用	可燃ごみ用：45L 45 円 30L 30 円 20L 20 円 10L 10 円 5L 5 円	平成 30 年度 から開始

新潟県上越市 191,831 人	原料の一部(16～18%) に非食米を使用	可燃ごみ用：45L 49.5 円 20L 22 円 10L 11 円 5L 5.5 円	平成 20 年度 から開始
新潟県南魚沼市 56,303 人	原料の一部(10%)に 非食米を使用	可燃ごみ用：45L 50 円 30L 35 円 10L 20 円	令和元年 10 月から開始予 定
北九州市 951,575 人	原料の一部(10%程 度)にさとうきび等の 非可食部を使用	可燃ごみ用：45L 50 円 30L 33 円 20L 22 円	令和 2 年度か ら開始予定

⑤ バイオプラスチックのコスト

バイオプラスチックは石油由来のプラスチックと比べると製造コストが高くなります。製造メーカーやバイオプラスチックを既に指定ごみ袋に採用している自治体に確認したところ、バイオ原料や原油価格の変動により変わってくるが、原料に 10%程度のバイオプラスチックを使用した袋は 100%石油由来の袋に比べ5%～10%程度のコスト増となるようです。

2. 指定袋の種類について

現在、宇部市で定めている指定袋はサイズ別に以下のとおり 4 種類あります。

県内の他市町では、大サイズの袋は 45 L、中サイズは 30 L がを指定している市町が多くあり、市民の利便性を考慮した袋のサイズを検討する必要があります。

規格	縦の長さ(mm)	横の長さ(mm)
40L	750	650
20L	700	450
15L	590	440
10L	450	350